

## 平成 29 年度第 1 回金沢市総合教育会議

日時 平成 29 年 10 月 27 日（金）10:30～11:30

場所 金沢市役所 4 階 兼六会議室

### 開会

（平嶋都市政策局長） 定刻となりましたので、ただ今より、金沢市総合教育会議を開催いたします。よろしくお願いいたします。

まず、お手元の資料の 2 枚目、出席者名簿をご覧ください。本日の会議には、構成員でございます市長、教育長および教育委員の皆さまの他、事務局を含めまして、本日の協議題に係る関係者としまして、鹿間市民局長ならびに中村町小学校の今村校長が出席をしております。よろしくお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、山野市長からあいさつを頂きます。

### 1 市長挨拶

（山野市長） 改めまして、おはようございます。

（一同） おはようございます。

（山野市長） 朝早くからご多用のところ、このようにお集まりいただきまして、心から感謝を申し上げます。僕は今年になってからマイクの前に立つたびに同じことを何度も言い続けています。今年の金沢市のまちづくりのキーワードは、コミュニティの醸成、コミュニティの充実。ぜひそのことに格段に意を用いて取り組んでいきたいということです。ありがたいことに、議会の皆さんにも、そのとおりでとおっしゃっていただきまして、条例であったり、さまざまな施策について、ご協力いただくだけではなくて、議会の皆さんからもご提案を頂きながら、さまざまな施策に取り組んでいるところです。

僕は高校まで金沢にいて、大学、就職は東京にいて、また金沢に戻ってきたのですが、いろいろな人から、「おまえの言葉は東京の言葉だ」と今でも言われたりします。金沢弁でいいなと思う言葉がいろいろあるのですが、今日は、教育の場ですから、僕は「校下」という言葉がすごくいい言葉だと思っています。由来は分かりませんが、恐らくは、われわれの先人の、学校の下に地域を元気にしていこうという思いから「校下」という言葉があったのではないかと思います。僕は今、金沢弁と言いましたが、僕は長坂に住んでいますが、長坂台校下社会福祉協議会という正式名称にあるように、正式な行政用語としても「校下」という言葉がありますから、やはりこれは大事にしていきたいと思っています。決して、差別的な意味があるわけでは全くないと思っていますし、その学校を下に、小学校であったり中学校であったりすると思いますが、その地域コミュニティを大切に守っていこうということで、守ってきたのがわれわれの先輩だと思っています。

われわれも、改めてその先輩の思いをしっかりと受け止めていきながら、地域における学校の在り方、また、学校と地域の関わり方は、議論することなくずっとスムーズにいい

感じで動いてきましたが、複雑化・多様化していく中で、もしかしたら、いま一度立ち止まって考える場面なのかもしれません。金沢市としましても、今日は、中村町小学校の今村校長にお越しいただいていますが、コミュニティ・スクールという名称のとおり、去年からモデル的に取り組み、今年は少し学校も増やして取り組んでいます。防災訓練などでも議会質問でよく出るのが、子どもたちに防災訓練にもっと参加してもらうためには、どんな取り組みが必要だろうか。やはり、学校のご理解、ご協力を得て防災訓練をすることによって、あってはならない万が一のときに、子どもたちも含めた地域の皆さんがすぐ対応できることも必要ではないかということも、よくお聞きするところです。

いろいろな視点からご意見を頂きながら、学校における地域コミュニティとの関わり方、学校そのものがコミュニティということも含めて、忌憚のないご意見、議論ができればと思います。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

## 2 地域とともにある学校づくり・学校を核とした地域づくりについて

(平嶋都市政策局長) ありがとうございます。それでは協議に移ります。本日の協議題につきまして、野口教育長から趣旨説明を頂き、以降の進行につきましてもお願いいたします。

(野口教育長) おはようございます。本日の協議題を「地域とともにある学校づくり・学校を核とした地域づくりについて」と設定させていただきました。初めに私の方から趣旨説明をさせていただいた後、事務局の方から資料の説明をしたいと思います。その後、意見交換に移らせていただきます。

それでは、私の方から初めに趣旨説明をさせていただきたいと存じます。早いもので、2年前の平成27年10月の総合教育会議におきまして「金沢市教育行政大綱」を策定させていただきました。これは、本市の基本的な教育行政の施策の方針を定めたものであり、この中には五つの基本方針を掲げてあります。そして五つの中に「未来を担う人材の育成」「家庭・地域の教育力の向上」を掲げています。

昨今、地域における教育力の低下や家庭の孤立化などの課題、学校を取り巻く問題の複雑化・困難化に対して、社会総掛かりで対応していくことが求められております。地域と学校がパートナーとして連携・協働するための組織的・継続的な仕組みが不可欠になってきていると考えています。そのためには、学校は地域との連携・協働を一層深めていくことが重要であると思いますし、また地域におきましても、学校と一体となって、地域の子どもたちの育成を図っていくための基盤整備を図ることが重要であると捉えています。

教育行政大綱のベースになっている「金沢市学校教育振興基本計画」におきましては、次のように基本的方向性を示しています。「次代を担う子どもが成長し、社会の中で生きぬく力を養うためには、学校と地域との連携が不可欠です。保護者や地域住民が、学校での活動に多面的に関わり、それぞれの役割を尊重しつつ、情報を共有して子育てに関わることや、各種行事・スポーツ活動等を通じ、子どもと地域とのつながりを深めることが重要です」と掲げられております。

また、「金沢市生涯学習振興基本計画」の中には、次のように基本的方向性を示していま

す。「金沢の将来を担う青少年が、他を思いやる心を育み、喜びを実感し、ふるさとを愛することのできる人材として成長するために、家庭・地域の教育力の向上を図り、家庭・地域・学校が連携し、一体となって青少年の育成を支援します」と掲げられております。

本市では、地域とともにある学校づくりとしてコミュニティ・スクール、また、学校を核とした地域づくりの推進として地域学校協働活動の推進に取り組んでいるところです。

この後、詳細については事務局から説明がありますが、コミュニティ・スクールは、地域の方々や保護者の方々に、学校運営に参画していただき、連携を深めることで、学校と地域の信頼関係を強め、一体となって学校運営の改善や子どもたちの健全育成を図ることが目的です。

また、地域学校協働活動は、家庭や地域における教育力の向上を目指し、地域と学校が活動目標を共有の上、連携・協働しながら、地域全体で子どもたちの成長を支えることを目的としております。

本日は、地域とともにある学校づくり、学校を核とした地域づくりについて、市長と教育委員の皆さまと意見交換や情報共有をさせていただきたいと考えております。さまざまなご意見を頂戴したいと思っておりますが、時間も限られていることから、今日は大きく二つの視点で議論を進めてまいりたいと思っております。一つ目は、「コミュニティ・スクール、地域学校協働活動について」、二つ目は、「地域コミュニティの活性化について」です。市長ならびに委員の皆さまの活発な発言をお願いし、趣旨説明を終わります。

私の方からは以上ですが、この後、資料の説明を事務局からお願いいたします。

(川口学校職員課長) それでは事務局から、「地域とともにある学校づくり・学校を核とした地域づくり」について、資料に沿って説明いたします。資料をご覧ください。

教育委員会では、学校職員課が行っておりますコミュニティ・スクールと生涯学習課が行っております地域学校協働活動の二つによって、まち全体で子どもたちを育成し、地域社会の活性化を図ることに取り組んでいます。資料左上の図に二つの取り組みの概要をお示ししました。コミュニティ・スクールは、学校運営協議会を置く学校のことであり、地域の方が学校運営に参画し、学校運営の基本方針を承認したり、学校が抱える課題について、共に解決を図っていく仕組みです。一方、地域学校協働活動は、地域コーディネーターを中心とした地域ボランティアの参画により、学校と目標やビジョンを共有しながら地域の活性化を図っていく仕組みです。

最初に、1. 本市におけるコミュニティ・スクールモデルの現状について説明いたします。

(1) 実施状況ですが、本市では、昨年度、中村町小学校をモデル校に指定し取り組みを始めたところです。この中村町小学校では年間5回の学校運営協議会を開催した他、年度末には取り組みの成果をまとめたパンフレットを作成し、校区内の全ての世帯に配布し、周知、理解に努めました。今年度は、中村町小学校の他、新たに泉小学校、泉野小学校など13校をモデル校とし、各学校では9月に第1回の学校運営協議会を開催したところです。

(2) 成果と (3) 課題につきましては、中村町小学校の今村校長から説明いたします。

(今村中村町小学校校長) まず、(2) 成果についてご説明させていただきます。中村町小学校では、学校の課題を「学力向上」「豊かな心の育成」「体力向上・健康増進」の三つ

に分けて明確化し、それぞれに対応した「知」「徳」「体」の分科会を設けました。分科会では、課題を明確にしたことで、課題解決に向けた具体的な提案を委員の方から数多く頂きました。また、本校は、地域学校協働活動にも取り組んでおりまして、その地域コーディネーターの2名は、学校運営協議会委員にもなっていることから、こうした提案を具体的な活動につなげることができました。資料では、その中から二つのことをご紹介してあります。

「あいさつ運動」は、「豊かな心の育成」に向けた取り組みとして行いました。毎月28日を「中村っ子あいさつの日」に設定し、学校だけでなく地域全体で、通学路や各家庭の玄関先であいさつ運動を行っているものです。

「中村塾」は、学力向上に向け、放課後学習を支援する取り組みです。放課後、学校の教室で地域の方や学生ボランティアの方々のご協力の下、プリント学習などをはじめとした、個に応じた学習支援を実施しております。

また、学校運営協議会の設置に当たっては、育友会や地域団体への趣旨説明や協力依頼など、大変なこともありました。設置に併せて、学校評議員会、学校関係者評価委員会など既存の組織を一本化することで、効率的な学校運営につながったと考えております。

(3) 課題については、保護者や地域の方々への周知については、さらに進めていく必要があると考えております。コミュニティ・スクールについての周知、理解を進めることで、子どもたちに対して、これまで以上にさまざまな支援が期待できます。また、より多くの方々に協力いただくことで、学校の職員をはじめ、学校運営協議会委員などの特定の方々の負担が大きくなり過ぎないように、配慮も可能になります。さらには、地域全体で子どもたちを育てていくという意識の醸成が高まるのではないかと考えております。

(川口学校職員課長) 最後に、(4) 今後の方向性について説明いたします。地方教育行政の組織及び運営に関する法律が今年4月に改正され、学校運営協議会の設置が努力義務化されたことから、本市におきましても、今後、拡充を図っていきたく思っております。なお、その際には、町会や公民館等の地域の負担を考慮しまして、まずは小学校において広めていきたいと考えております。

コミュニティ・スクールの現状につきましては以上です。

(藤木生涯学習課長) 続きまして、2枚目の資料をご覧ください。本市における地域学校協働活動事業の現状についてご説明させていただきます。

まず実施状況ですが、生涯学習課では、地域と学校が連携する事業として、これまで「学校支援地域本部事業」および「子どもを褒めて育てる地域づくり推進事業」を実施してきました。この二つの事業を統合し、今年度から新たに「地域学校協働活動事業」を開始しました。この事業には、地域コーディネーターという地域と学校をつなぐ役割を担う人材が不可欠です。地域住民と学校の情報共有や地域住民への助言などを行いまして、地域と学校の相互理解を深め、連携・協働した取り組みを展開します。

主なスケジュールとしましては、実施希望校区では地域学校協働本部を立ち上げ、地域コーディネーター同士の情報交換やネットワーク形成のための連絡会や研修会を年5回程度実施する予定です。また、翌年2月には未開催校区を含めまして広く周囲に活動内容を

お知らせする事業報告会を開催します。今年度、実施校区は19校区です。各校区に地域コーディネーターが1名以上配置されております。現状の担い手としましては、PTA 役員OB が特に多く、次いで公民館関係者や教職員OB となっております。

主な活動内容は、写真にもありますように、マナー講座などの学習支援、清掃活動などの地域支援が特に多く、花壇づくりなどの環境整備、子どもの見守りなどのスクールサポート、図書ボランティアが次いで多くなっています。

資料右上の成果の項目に移ります。19校区で70以上の活動をしています。先ほどご説明のありました中村町小学校をはじめ、さまざまな活動を行っております。こちらに掲載しております西南部中校区のマナー講座では、地域の方が講師となって、2年生のキャリア体験前に社会のルールやマナーを学んでいただく活動。そして紫錦台中校区の国際交流会では、留学生や地域の外国人の方による英語での交流をしました。栗崎小校区の粟アップ教室では、公民館や育友会関係者が学習支援ボランティアとして、夏休みの課題の取り組みの支援をしました。

課題ですが、これらの活動の意義や成果を広く知っていただくこと。地域と学校をつなぐ人材の確保や育成。さらに、地域と学校が連携して活動できる体制が十分整備されていくことが必要であることなどが挙げられます。

今後の方向性としてしましては、より多くの地域で子どもを育むため、実施校区の拡大を働き掛けていくことや、継続的な実施を図ること。互いに顔が見える、分かり合える関係を築きまして、地域のつながりを密接にすることを目指していきたいと考えております。以上です。

(野口教育長) ありがとうございます。説明が終わりましたので、ここからは、まず視点1の「コミュニティ・スクール、地域学校協働活動について」、ご意見を頂戴したいと思います。教育委員の皆さま、どうでしょうか。今ほどのご説明を踏まえながら、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動、本文について、何かお考えがありましたら、ご発言をお願いしたいと思います。では、河野委員、どうぞ。

(河野委員) 特別支援教育の立場から、コミュニティ・スクールの有効性について意見を述べさせていただきたいと思います。特別支援教育が必要な子どもたちは、しばしば周りがびっくりするような行動を取ることがよくあります。例えば人目を気にしないで、大きな声で独り言を言ってみたり、楽しかったことを思い出して笑ってみたり、あるいは車が好きな子は、人の車の中をのぞき込んで不審者のような行動を取ることがあるわけです。

特別支援教育は、そういう子どもたちの行動を改善することを目指して教育を行っているわけですが、その行動を全てなくすことは当然、不可能であるし、なくすことは、その子らしさを逆になくしてしまうこともあると思います。迷惑にならない程度に行動改善することは目指します。ただ、それだけでは、その子たちは地域で生きづらいことが多いと思います。必要なのは理解です。地域の方々の理解がないことには、本当にインクルーシブな社会というのは不可能だと思っています。

そのときに、コミュニティ・スクールというのは、すごくいい仕組みだと思います。先ほど教育長の趣旨説明の中にありましたが、組織的・継続的な仕組みという言葉が出てき

ました。これがないとどういうことが起こるかという、保護者の方の努力や学校の方の努力、地域の関心のある方の努力といった、個による活動によって何とかつなぎ止めていくようなことが現在に行われていることが多いと思いますが、それだけでは、その方がいないところではどうなるのかという温度差が出てくると思います。そのときに、このような地域の方も一緒に学校運営に関わるような仕組みがある中で、話し合いの場が持たれるようなことがあると、組織的・継続的な仕組みとしてインクルーシブな地域社会を支える一つの有効な仕組みではないかと考えております。ですので、先ほどの資料説明にありましたが、まず小学校での拡充を図っていくという目標については、ぜひ進めていただきたいと思っております。以上です。

(野口教育長) ありがとうございます。組織的・継続的な取り組みとして大変大事な取り組みであるという話がありました。コミュニティ・スクールについてご発言がありましたが、このコミュニティ・スクールについて、何かご発言がある方。では、岡委員、どうぞ。

(岡委員) 冒頭、市長さんが言われましたように、金沢は校下というものがかなり安定していたわけですが、まちの中から、米屋さん、魚屋さん、肉屋さん、洗濯屋さんなど、〇〇屋さんという地域と密着したお仕事の人がだんだん少なくなってきた中で、学校を中心として地域の人たちとともにコミュニティ・スクールを設けて、地域の子どもたちを育てていくことはすごく大切なことだと思っております。

ただ、学校相互訪問などさせていただいたときに、学校職員課の課長さんなどが、先生方に働く時間についていろいろと示唆しておられましたが、その中では、本来の先生の職分である、自分たちが指導するための勉強する時間との兼ね合いといったことに対するバランスをこちらの方である程度見てあげないと、なかなか大変かなとも思います。こちらが応援する立場として、こういう場をつくっていただいてやっていくのは、口で言うのは簡単ですが、実際にはなかなか大変なことかなと思っておりますので、またご指導のほど、よろしくお願ひしたいと思っております。

(野口教育長) ありがとうございます。先生方が本務に向き合う時間をしっかりつくっていくためには、コミュニティ・スクール等を通して、子どもたちを育むことは大事なわけけれども、あまり過度な負担をかけてもいけないだろうという趣旨のご発言だったかなと思っております。他にございませんでしょうか。では、大島委員、どうぞ。

(大島委員) 私も長きにわたって活動してきましたPTA 育友会活動におきましても、このような具体的な仕組みと枠組みができたことは非常にありがたいと思っています。私の経験から言いますと、学校と保護者と地域には、まず絶対的な信頼関係がないと、何をやってもうまくいかないと思っていまして、その信頼関係を育てていくにはコミュニケーションを取る場が不可欠だと思っています。そういった意味では、地域の方が学校運営に参画することで、地域全体でわれわれの大切な子どもたちを育む意識が醸成されていくのではないかと思います。ただ、逆に意識の醸成というのは非常に時間がかかりますので、継

続していくことが非常に重要なことだと思います。

私は教育委員になりまして、いろいろ学校訪問をさせていただく中で、非常にたくさんのいろいろな地域と学校があって、学校、地域自体が多様化しているというのも非常に分かりました。そういった意味では、こういう仕組みは、これから小学校から拡充されていくことだと思いますので、拡大された中で、今日お話のありました中村町小学校のような成功事例を共有することで広がりが出てくるのではないかと。そういった意味では、非常に期待させていただきたいと思っております。

(野口教育長) はい、ありがとうございます。今ほど大島委員から、学校と地域との信頼関係というご発言がありました。それぞれ学校が置かれてる地域との関係は違っていて多様化しているかと思えます。

私のこれまでの経験から言いますと、初めて校長を拝命したときに、地域の方から、学校には春とか冬にはいろいろな取り組みがあるけれども、違った季節の取り組みがないと。ぜひ学校と地域が協働していろいろな行事を、祭などをつくりながら、いい関係をつくって子どもたちを育てていきたいというご要望がありましたので、春には桜が咲いて桜まつり、冬はスキーを一緒にやるということだったのですが、秋にはお月見はいかがでしょうかと。ということで、お月見の会をやらせていただきました。それが大成功だったということもあって、今度は地域に盆踊りがないと。金沢でも盆踊りのない地域が結構多いようです。それで、夏に地域の方々が喜ぶような祭を学校で企画してもらえませんかということで、やらせていただきました。

子どもたちは非常に活発に、いろいろな自由な発想をして、いわゆる露店みたいなものを子どもたちが作って、そして露店ではお金で遊ぶのではなくて、ペットボトルのキャップを10個持ってきたら1回できるとか、それからプルトップを20個持ってきたら1回できるとか。そういうことで地域の方と非常に仲良くやって、いい関係ができたと思っております。まさに双方で子どもたちを育てていくという意味では、信頼関係が一番大事だと思いますので、本当に貴重なご意見だったなという認識を持っています。

他にございませんでしょうか。では、早川委員、どうぞ。

(早川委員) 自分の子どもは随分大きくなってしまったのですが、お母さんの立場からというのは、現役のお母さんと共通点があると思います。子どもが通っている学校でほんの少しでも変わったことが起きると、ものすごく心配で、一体これは何なのだろうとあわてます。例えばコミュニティ・スクールと聞いただけでも、まず、今までとどう違うのだろう。次に、自分の子どもにはどんな影響があるだろう。次に、では私たちファミリーとしてはどう変わっていくのか、何をしなくてはいけないのかしらん。それに対して、しっかりと納得のいくような説明とか実践が欲しいと思います。今日、校長先生の説明の中に、随分と、これまでとは違って丁寧なフォローアップもありました。これだけ説明していたら、いろいろな具体例も紹介され、納得できるかなと期待を持ちました。

これから具体的な例を二つお話します。教育委員会で視察に行かせていただいた福井市至民中学校の「学校づくり物語」という本を、この学校で求めてきました。学校をつくることから教師、行政、設計者、研究者、地域、保護者、子どもたちまでが一体となって

取り組んだ学校づくりです。10月にうかがった目黒中央中学校の方式と少し似てます。クラスルームが小さくて単に荷物を置くロッカーがあるだけです。あとは数学フロア、国語フロアなどになって、四つ葉のクローバーのような形の学校なのです。ここへ伺ったときに、学校を案内してくださったのは地域のお二人の方だったのです。先ほど大島委員から信頼感というキーワードが出ましたが、案内をしていただく学校も、また、案内する地域の方も、地域が学校を信頼し、学校が地域を信頼しなかったら、そんな活動をお任せすることはできませんね。

さらに、地域の人が希望すれば、昔できなかった教育、特に社会科と国語が人気があるそうですが、地域の人が授業を受けたいというときに、いろいろな書類を出して、校長先生のオーケーが頂ければ、最後尾の列に机と椅子が用意されて、子どもたちと一緒に授業を受けることができます。これも、どちらの方向にも信頼感がなかったら、できない参加ではないかと思いました。そして、2人1組というのが大切です。例えば以前に野口教育長が心配していらした身近な人が犯人だったなど犯罪が起きないように、歯止めになるのではないかと、何でもペアで動くというのが歯止めなのかなとも思いました。

もう一つ最後に、ドイツの例を少しだけお話しします。ドイツは小学校は午前中で終わってしまうのですが、学童で残る生徒たちは学校の食堂で昼食を食べます。その後の活動は、新学期の始まりに、例えば温水プールで泳ぎたいとか、社会見学でニワトリを飼っているところに行きたいとか申し込みます。定員があるので、定員よりオーバーなら他の活動を選びます。そうやって子どもたちを受け入れるのは専門の先生と地域の人。多分、ニワトリを飼っている会社か農場の人だと思うのですが、とてもうまく連携ができていて、少人数で動いています。すぐには参考にはならないかもしれませんが、お昼の食事が出るので家族はすごく安心です。どういうシステムなのか、今度、もっと詳しく聞いてまいります。以上です。

(野口教育長) ありがとうございます。いろいろな国をご覧になられたご経験を踏まえたお話がありました。やはり信頼がとても大事だということでした。田邊委員、いかがですか。

(田邊) 長い目でこれまでの学校の歩みを振り返ってみたときに、昨今の動きは新たな展開の必要性ということで、コミュニティ・スクールの取り組みが進んできているといえます。学校の成り立ちからみて、学校での取り組みや捉え方はどうだったかといえば、それは現実と距離を置いて物事を考えたり思考を深めたりできるという点が特徴でした。リアルな現実から離れて学校での取り組みをすることが出発点だったといえます。そうすると、地域の中に学校がありながら、学校でやっていることを地域の方は遠くから眺める、ある意味で少し敷居が高かったという成り立ちであったと思います。

その歴史的な役割を振り返りながらも、今日、子どもたちの巣立っていく社会が大きく変動する時代状況をむかえるなかで、学校の時代にあってもしっかりとリアルな現実を取り入れることにシフトしていかないと、学校を卒業してから、学校で学んだことが発揮できないと不安視されるようになってきている。コミュニティ・スクールはこの点の橋渡しをしようとする発想だといえますが、そうであるなら、ある意味で敷居が高かった学校を

眺め見守るという位置づけよりは、もっと積極的に学校に関わるような取り組みなり捉え方をしていかないと、子どもたちにとって、卒業したときに段差に悩まされることになってしまう。そこを何とか乗り越えなければいけないというのが課題として認識されて、コミュニティ・スクールの着想が生まれてきています。地域にはさまざまな資源があり、人材がいっぱいいますので、これらを学校にどう巻き込むかというところに知恵を絞る必要があります。

では、どう積極的に地域資源や地域人材を学校の取り組みの中に生かすことができるのかという点で、学校運営に多彩なサポートを展開していく拠点として、学校運営協議会が導入され機能できるようになっています。これまでの教育活動へのボランティア的な地域支援からさらに一步踏み出すような展開も学校運営協議会の場で整理できるようにしながら、学校の必要に応じて、地域の方々を巻き込むような展開を多様に工夫できるようなプラットフォームとして期待できます。

コミュニティ・スクールについては、全国でいろいろな取り組みパターンがみられます。なかには学校運営に強い発言権をもつような地域もあります。ただ、金沢市の場合には、どのような仕組みがこの地域にふさわしいのか、先ほど岡委員もおっしゃったように、先生方の取り組みを尊重しながら導入するような選択肢が望ましいと思っています。取り組みを進め実践的に検証しながら改善していく方向が望まれます。

これまでの眺め見守るという発想から、支え関わるという発想を地域の方も意識して、それを推進していく協議会の拠点的役割について周知を進め、学校にとって望まれる体制が一步でも二歩でも推進できるような環境づくりに期待感を持っています。

(野口教育長) ありがとうございます。いわゆる地域の方々が見守るということにも関わって学校をサポートしていくという部分も大事にしていくと。無理のない金沢らしいやり方でいいのではないかとというようなご発言でした。今、5人の教育委員の方々にご発言いただきましたが、今取り組んでいるコミュニティ・スクールも地域学校協働活動も、決して意味がないのではなくて、大変意味があって、いい取り組みだというご発言だったのかなと思っています。

市長からは、何かございませんでしょうか。

(山野市長) 実は僕は10年以上前に議員をしているときに、当時の文部省がコミュニティ・スクールと言って、僕は、これはまさにコミュニティのまち金沢にぴったりだと思って議会で取り上げたことがあります。当時は石原教育長でしたが、石原教育長も、大切なテーマなのでしっかりと研究していきたいとおっしゃられて、今日に至ったのではないかと思います。そういう意味では思い入れも強く持っています。

私は、学校に飛び込みで、アポも取らずに訪問しています。訪問していて、よかったなと、もしくは、これは広がっていけばいいなと思うのは、どの学校に行っても校長先生も教頭先生も口をそろえておっしゃるのは、本当に地域の皆さんに学校を支えていただいていると。朝は交通推進隊の皆さんや見守り隊の皆さんが子どもたちが安全に学校に来られるようにしてくれるし、朝の本読みで学校図書ボランティアの方、中にはお子さんが卒業した後もずっとボランティアとして本読みをしてくださる方だったり、いろいろな形で

ごく地域の皆さんに支えていただいているとおっしゃっていただいています。

そのような方たちに、特に役職のある方たちにコミュニティ・スクールのメンバーとして入っていただくことによって、より思いを強く関わってもらえる点ではいいなと思いつつも、先生方の多忙化が言われているこの時代に、先生のご負担になることによって、岡委員がおっしゃったように、子どもたちと触れ合うことによって子どもたちの成長を育んでいくという先生の本来のお仕事が、決しておろそかにするような方はどなたもいらっしゃらないと思いますが、そこをしっかりとしながらこのコミュニティ・スクールに関わることによって、先生方のご負担が心理的なものも含めて新たに付加されようとするならば、これは本末転倒になりかねないという懸念がすごくあります。

今村校長のご尽力で、中村町小学校にはいいスタートダッシュを切っていただいたからこそ2年目の今年は増やすことができました。校長先生になる方々ですから、皆さんマネジメント能力の優れた方ばかりだと思っていますが、現実には動いていく中で、もしかしたら、地域の中で対応に骨の折れる方がいらっしゃると思うならば、校長先生なり、現場の先生方にご負担をおかけすることが多くなるようなことがあると、これは本末転倒になりかねないという懸念もすごくしているところです。そのバランスをどう取っていくか。一義的には、ご負担をおかけしますが、やはり校長先生や教頭先生の力と同時に、校長先生や教頭先生をしっかりとサポートする教育委員会、またハード的、予算的な対応が必要などときには市長、局がしっかりと支えていくことが必要なのかなという思いを、いろいろ回りながら感じているところです。

(野口教育長) ありがとうございます。先ほど川口課長の方から、今後の方向性として、まずは小学校での拡充を一層図っていきたいというお話がありましたが、今の市長の話の踏まえながら、進めさせていただければと思っています。

では、大変申し訳ございません。時間の関係もありますので、次の視点の方に入らせていただければよろしいでしょうか。

それでは、次に「地域コミュニティの活性化について」に移らせていただきます。今年度、本市におきましては、地域コミュニティの充実と市民協働の推進に重点的に取り組んでおります。本日は鹿間市民局長にご出席いただいておりますので、現在の本市の状況や活性化推進に向けた取り組みなどについて、ご説明いただければと思っております。よろしく願いいたします。

(鹿間市民局長) それでは私の方から、本市の地域コミュニティの状況と取り組みについて、資料に基づきましてご説明させていただきます。まず、本市の現状と背景ですが、核家族化や少子高齢化の進行、価値観の多様化や生活様式の変化などにより、地域活動に参加する住民の減少が進み、住民相互のつながりが希薄化しつつあります。

これは下の町会加入率の変化のところを見ていただければ分かるかと思いますが、昭和60年では町会加入率は81.15%ありました。しかし、平成29年では69.24%となっております、約12%低下しております。実際、町会の加入世帯自体は増えておりますが、これは単身世帯の増等により、総世帯数が町会加入世帯の増加を上回っているため、町会加入率が減っている状況です。

第1回地域コミュニティ活性化推進審議会でも、集合住宅の住民をはじめ、町会に加入しない人が増えている。特に集合住宅では町会行事に参加する住民は非常に少ない。役員のみ手がない。金沢独特のコミュニティのよさを知らないなど、地域における現状と課題についてご意見を頂きました。このような現状を踏まえまして、本年4月に地域コミュニティ活性化推進条例を制定、施行させていただいたところです。条例では、地域におけるコミュニティの充実と市民協働を推進し、良好な地域社会の維持および形成に資するため、住民自身の自主的な取り組みを核とするなどの基本理念を定め、市、地域住民、町会、その他の地域団体ならびに事業者の役割を定めております。

右側の役割をご覧ください。市の役割は、地域コミュニティの活性化の推進に関する総合的かつ計画的な施策を策定および実施する。

地域住民の役割は、住民相互の交流を通して連帯意識を醸成し、居住する区域の町会その他の地域活動に参加するよう努める。

町会その他の地域団体は、誰もが参加しやすい開かれた地域活動の実施や当該地域活動への参加の呼び掛け等を通じて、地域コミュニティの重要性について認識を深めるよう努める。

事業者は、所在する地域において行われる地域活動に協力するよう努める。また、従業員がその居住する地域において地域活動に参加することに配慮するよう努めることとしております。

地域コミュニティの活性化の具現化に向けた取り組みですが、市の役割であります条例具現化と地域コミュニティの活性化に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、現在、地域コミュニティ活性化推進計画を、有識者や町会、公民館の代表者などをメンバーとする審議会で鋭意検討中です。市内の全町会長を対象にアンケート調査も実施しております。これを参考にしながら年度末までに策定することとしております。

また、条例に基づきまして、町会の加入促進や活性化に向けた、他の地域のモデルとなる先進的な取り組みも実施させていただいているところです。このモデル事業に関しましては、校下（地区）町会連合会、または町会連合会が推進する町会から22事業の申請があり、地域コミュニティ活性化モデル事業選考会（学識経験者等で構成させた会議）で審査した結果、19事業が採択されて実施しているところです。内容は、防災関係やレクリエーション関係、ICTを活用したものなど、今後の成果を見ながら計画に生かしていければと考えております。

その他の取り組みとしまして、まちづくりに係る人材の育成、市民や地域団体等とのコーディネート、情報提供の三つの役割を担う、市民参加と協働によるまちづくりの拠点となる市民活動サポートセンターを平成30年度に開設するため、現在、検討懇話会で整備計画を検討しているところです。なお、開設場所は、金沢学生のまち市民交流館に暫定開設を予定しております。以上で説明を終わります。

（野口教育長） ありがとうございます。今ほど鹿間局長の方から、地域コミュニティの活性化についての市の取り組みについてご説明を頂きました。冒頭、市長さんの方からも、今、金沢市のまちは地域コミュニティの醸成・充実や市民協働を大事にしているという話がありました。われわれ教育委員会も、地域コミュニティの活性化に何か取り組むこ

とができないかという視点で、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動が大きな力になるのではないかと考えて、今日は、こういった会を持たせていただいています。

今お話がありました地域コミュニティの活性化の取り組みと、この二つのコミュニティ・スクール、地域学校協働活動のつながり等について、教育委員の方々、何かご発言はありますか。では田邊委員、どうぞ、お願いいたします。

(田邊) 自分自身も、よい市民かと問われると、どう返事をしたらいいのか逡巡する面があります。というのも、市民としての生活には、多様な展開や関わり方があり、これこそという視点をなかなか絞りたいところがあるからだろうと思います。生活の基盤として、地域があってこそ日頃の生活が成り立つというのは当たり前のことですので、その地域がどのような形で、どんな経緯があって現在に至るのかを知っておくことはとても大事なことになります。生活の場である地域について学習するとともに、地域の役割について理解を深めることは、公教育の使命であり、学校での学習の積み重ねに大事なポイントがあるといえます。

先ほどのテーマでありました学校での取り組みも、地域からの支え関わりを大事にするという方向で変化しております。二つ目のテーマであります地域コミュニティ活性化にかかわっても、同様に学校での協働的取り組み拠点、プラットフォーム形成の趣旨について周知を図り、地域コミュニティの一つの場として大いに活用できるように協力を働きかけ、学校と地域の橋渡しとして機能できるようになることが期待されます。幅広い周知や呼びかけが学校にとっても地域にとっても大事だと思います。

一方で、いろいろな活動を行うなかで、それにどんな意味や意義があるのかについて理解したうえで取り組めるのであれば、同じ活動であっても思いが格段に深まるといえます。今、学校への地域からの関わりを深める観点で、「地域学校協働」というネーミングを使った活動が推進されるようになってきたことは、とても大きな意味があると思います。地域コミュニティ活性化の観点からも、地域学校協働活動を積極的に展開していく、「協働」というネーミングの妙味を強調して、地域人材の多彩な交流が地域活性化につながると、改めて認識できると思います。各地域でネーミングにふさわしい実践が取り組まれ、深まりのあるたくさんの好事例が発信されるようになることを期待しています。

(野口教育長) ありがとうございます。

冒頭、藤木課長の方からも若干話があったと思いますが、これまではどちらかというと、学校から地域に「これに協力してください」というスタンスだったのです。だからこそ、これまでは、学校支援地域本部というネーミングだったのです。それが今回は地域学校協働本部ということで、「協働」が付いたということは大きな意味合いがあるかなと思っています。これまで一方通行だったものが、これからは双方向でという意味合いがあると思っています。要は、地域が学校を支えることによって、地域も元気になっていくという意味合いがある活動だということを、今日のお話の中でも改めて確認させていただけたと思っています。

市長、このあたりで何かおまとめいただけますか。

(山野市長) 僕は冒頭、地域コミュニティのことを申し上げました。一方では、これも先ほど少し申し上げましたが、時代が変わりつつあります。住民ニーズが複雑化・多様化しつつありますので、従来のコミュニティはもちろん大切にしながらも、少し考え方を変えたとまではいきませんが、幅を持ったことも必要なのかなと。

そういう意味では、鹿間局長が触れていたように、最後に市民活動サポートセンターがありますが、僕は市の職員の皆さんには、仕事を頑張ると同時に、ぜひ地域活動に関わってほしいと。町会であったり、PTA であったり、公民館であったり、さまざまな活動に関わってほしいと。それだけではなくても、例えば学生時代に野球をしていた、サッカーをしていた、音楽をしていたという人は、地域の野球のサークルに入る、子どもたちのサッカーの指導をする、音楽のバンドを組む、音楽の楽団と一緒に活動する。それもコミュニティにつながってくると考えていまして、そういう活動も含めてコミュニティだと思っているので、仕事を頑張るだけではなくて、そういう形でも、ぜひ、いろいろな地域に関わってほしいと言っています。そういうところから間口を広げながら、コミュニティの活性化につながっていくことが必要だと思っています。

先ほど資料の説明を聞いて、地域学校協働活動実施の数が19校区あるというのは、よいどん、スタートの年では上々だと思います。どれだけだったらいいか悪いかという基準はともかくとして、職員も頑張ってくれましたし、地域の皆さんも大事だという思いで19校区で始まったのではないかと考えています。今後の方向性で、さらに拡充、拡大していきたい、より多くの地区においてということですので、ぜひここは期待したいと思います。職員も大変かと思いますが、ぜひ、地域の皆さんが活動しやすい環境をバックアップすることによって、子どもたちに触れていきたいと思っています。

一つ、問題提起を。僕は仕事柄、学童野球や少年サッカーに呼ばれることがよくあります。子どもたちにはともかく、指導者によく言うのは、学校があつての学童野球だと。地域があつての少年サッカーなので、公式戦は仕方がないが、学校の行事、地域の行事があれば関わってほしい。子どもが長坂台クラブで野球をしていましたが、公式戦は長坂台クラブだけでやるのではないので、他の全体もあるから仕方がないけれども、練習などは、やはり地域や学校のことにきちんと関わってほしいと。社会体育大会があれば、試合は仕方がないけれども、練習は、社会体育大会にきちんと参加した上で、終わった後に練習するというふうにしてほしい。

僕はサッカーにも同じように言っています。サッカーにも、地域の公民館のバザーがあるのだったら、朝から晩までいるとは言わないけれども、公民館のバザーに子どもたちが参加しやすいような環境をつくった上で練習を頑張れ。社会体育大会もするように頑張れ。そのようにしてほしいということを、僕は学童野球や少年サッカーの指導者の会でよく言うのです。ただ、僕の発言力がまだまだ弱いので、皆さん黙って聞いてくれてはいますが、ご理解いただいてそのようにしてくれているところもきつとあると思いますが、お聞きしていると、必ずしもそうではない状況がやや散見されるし、耳にすることもあります。

僕が子どものときは、学童野球や少年サッカー、ミニバスなどはなかったのですが、今はありまして、それはすごく大事なコミュニティだと思いますので、そのコミュニティも大事にしながらも、大前提は、学校があつた上での学童野球、地域があつた上でのミニバス、少年サッカーなのだということをきちんと分かってもらった上で、むしろ学童野球の

仲間、少年サッカーの仲間がいるのだったらその中でコミュニティがしっかりしているはずですから、そのコミュニティとして、学校行事に関わる、地域行事に関わることが大事かなと思っていますし、これからも言い続けていきますので、ぜひ教育委員の皆さんも、共感を覚えていただけるなら、声を上げていただければ大変うれしいと思っています。

(野口教育長) ありがとうございます。先ほど市長のお話の中にもありましたが、コミュニティ・スクールというのは非常に長い歴史のものだと認識しています。教育長を拝命したときに、実はコミュニティ・スクールを意識したのですが、全国的に47都道府県でコミュニティ・スクールがない県は当時、青森県、富山県、石川県、福井県の4県であったと記憶しています。ある県外の教育長が話しているときに、石川県でコミュニティ・スクールが導入されていないのは、地域のつながりが強いからだろうと。校下という言葉がありました。まさにそのことで強いのだろう。だから要らないのではないかという話があったのをはっきりと覚えています。

ただ、そういうことはありましたが、私はコミュニティ・スクールを導入するときに、地域学校協働活動を導入するときに、地域のコミュニティをもっともっと良いものにしたという思いでこれを入れていきたいと思いましたが、これからもそうしていきたいと思っています。これからも教育委員の皆さんには、ご尽力賜りたいと思います。

(早川委員) 一つお願いがあります。どこかに書いてありましたが、コーディネーターの役割は、とても大切です。この人たちがいらっしやらないと、難しいコミュニティでは先生方も大変で、コミュニティと学校をつなぐことができないと思います。長年、とある中学校で、ボランティアとして夏休み帳の英語が遅れている生徒たちのお手伝いをしてきました。今年は何の連絡もなかったもので、珍しいことですが、私の方から連絡しました。「コーディネーターが代わりました」とお返事がありました。コミュニケーションが途切れてしまうのは、コーディネーターの能力や引き継ぎのせいでしょう。ここに2名と書いてありますね。これはいいなと思いました。ぜひコーディネーターはしっかりした方を2人選び、その人たちには、きちんとお給料も出て、長続きしていくようなシステムになるといいですね。

(野口教育長) ありがとうございます。その希望に沿うようにできればと思います。

それでは、今日は大変ありがとうございました。時間がそろそろ迫ってまいりましたので、司会の方を事務局にお渡しいたします。

### 3 その他

(山田教育次長) 今日はどうもありがとうございました。冒頭、市長が申し上げましたとおり、本市のまちづくりの大きなテーマは、地域コミュニティの充実・醸成ということで、教育委員会としても取り組みを進めているところです。ただ、社会の担い手となる子どもたちとの関わりを持ち、また生涯学習を通じて全ての世代との関わりを持つ教育委員会としましては、まだまだ多くのことができるのではないかと考えております。本日頂き

ました意見を踏まえまして、知恵を絞り、工夫いたしまして、その実現にまい進してまいりたいと思っております。本日は誠にありがとうございました。

## 閉会

(平嶋都市政策局長) 以上を持ちまして総合教育会議を終了いたします。ありがとうございました。